



みんなで地域の未来を創る！

SDGs アクション

人+文化が地域の資源を魅力化！

令和 3 年度
ローカル SDGs 人材育成地方セミナー
開催レポート

【目 次】

1	事業概要	1
2	北海道地方セミナー「アウトドア業とローカル SDGs」	2
3	東北地方セミナー「次世代の眼から見る大崎耕土 SDGs アクション」	3
4	関東地方セミナー「森という場の可能性」	4
5	中部地方セミナー「若者と考える持続可能な遠山郷の未来」	5
6	近畿地方セミナー「パートナーシップで育む京都のごみ削減活動」	6
7	中国地方セミナー「SDGs 海と川を守ろう実践セミナー」	7
8	四国地方セミナー「食から持続可能な地域づくりを考える」	8
9	九州地方セミナー「海洋プラスチックから考える対馬型 SDGs」	9
10	全体セミナー「みんなで地域の未来を創る！ SDGs アクション」	10

Ⅰ 事業概要

■ 事業の背景と目的

社会課題が複雑化する昨今、地域の課題の解決については、環境の面からだけではなく、経済的及び社会的な面からの総合的なアプローチが必要である。地域循環共生圏を創造し、地域の脱炭素化を進め、地域の魅力と質を向上させて地方創生に貢献するためには、地域の特性と強みを活かしながら、地域内外の様々な人たちが連携し、協働で地域課題の解決に取り組むことが求められている。

この事業は、地方に居住・勤務し、環境課題を中心とした地域課題の解決に取り組むポテンシャルを有する人材をターゲットとしてセミナーを開催することにより、それぞれの地域での脱炭素社会の実現、持続可能な地域づくりに主体的に関わる人材の気付きを促し、各会場を中心とする地域のネットワークにつなげることで、次なる行動を起こすための普及啓発を行うことを目的としている。

■ 実施概要

2021年12月から2022年2月にかけて、全国の8地域で、それぞれの地域が抱える課題を踏まえ、持続可能な地域づくりに向けた様々な創意工夫について議論された。各地方セミナーとともに、地域の課題に詳しい関係案内人による地域の現状、課題や地域での取り組みについての紹介、講師による講演を聞いたのち、講師と関係案内人との対話、会場参加者やオンライン参加者たちとの質疑応答が2時間かけて行われた。会場参加とオンライン参加とのハイブリッド方式を基本とし、地域の人たちの交流の場となるような会場で開催され、各地方セミナーとも活発な質疑、コメントがなされた。

地方セミナーの後、2022年2月に東京で開かれた全体セミナーでは、それらの特徴的な部分について取り上げながら、全国の事例を踏まえ、今後の地域づくりに向けたヒントを探った。

■ 開催地・全体スケジュール等総括表

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
月 日	12月19日	12月4日	1月16日	1月30日	1月23日	12月12日	2月6日	1月29日
開催地	北海道 日高町	宮城県 大崎市	山梨県 北杜市	長野県 飯田市	京都府 京都市	岡山県 岡山市	徳島県 板野郡	長崎県 対馬市
参加者数	81名	72名	59名	108名	86名	109名	88名	120名
テーマ	アウトドア業と ローカル SDGs	次世代の眼か ら見る大崎耕 土 SDGs アク ション	森という場の 可能性：子ど もとひらくローカ ル SDGs	若者と考 える持続可能 な遠山郷の 未来	パートナーシ ップで育む京 都のごみ削 減活動	SDGs 海と川 を守ろう実践 セミナー	食から持続 可能な地域 づくりを考 える	海洋プラスチ ックから考 える 対馬型 SDGs
講 師・ 関係案内人	1名+1名	2名+1名	1名+1名	1名+3名	1名+2名	1名+1名	1名+1名	1名+1名
評 価 (大変満足 +満足)	91%	82%	86%	86%	92%	86%	82%	89%
特 徴	過疎地におけ る自然資源を 活かした活性 化	水管理のグリ ーンインフラと 地域資源活 用の工夫	アルプス南麓 の自然豊かな 地域での自然 教育	人口減少地 域における Uターン、I ターン	京都の祭り のごみ減量 化と里山保 全	岡山でのごみ を減らし、海を 守る活動	昆虫食によ るタンパク源 の確保と食 品ロス対策	地域課題の 教育資源とし ての活用
キーワード	よそ者、自然 資源、顔の見 える繋がり	世界農業遺 産、渡り鳥、 人や文化を活 かした地域資 源活用	幼児教育、自 然体験、多様 性の尊重、全 体のつながり	新しい觀 光、霜月 祭、Uター ン、Iターン、 人と人との繋 がり	元栓を閉め る、祇園祭り ごみゼロ大 作戦、1日 1エコ／ぬか 漬けチャレン ジ	ごみの減量と 回収、初めの一 歩、きれい な海と豊かな 海	食から見た 持続可能 性、食糧確 保、食品ロ ス、サーキュ ラーエコノミー	日本海の入り 口としての対 馬、移住者の 力、教育資源 としての海ごみ

2 北海道地方セミナー「アウトドア業とローカル SDGs」



講師: 鈴木 宏紀さん



関係案内人: 萱津 大知さん



司会: 中田 和彦さん

- ・ 開催日時: 2021年12月19日(日) 13:00~15:00
- ・ 開催場所: 沙流郡日高町 国立日高青少年自然の家
- ・ 講師: 鈴木 宏紀さん (自然考房 Nature Designing 代表等)
- ・ 関係案内人: 萱津 大知さん (国立日高青少年自然の家企画指導専門職)
- ・ 司会: 中田 和彦さん (国立日高青少年自然の家所長)
- ・ 参加者数: 81名

日高地域に移住し、アウトドア業を起業した講師の鈴木さんから、地域のよさを広く発信するとともに、様々な課題に向き合い、コミュニティショップの経営や自然を活かした観光振興など、地域住民を巻き込みながら地域課題の解決に取り組む様子、アウトドア業のもつ可能性などを紹介いただいた。その後、関係案内人の萱津さんのインタビューに答える形で、日高に定住しない人たちをいかにつなぎとめるなどについて話していただいた。鈴木さんは、若いうちに様々な人と出会い、積極的に自分の意見を言うように心がけると良い、若いうちに地域の外に出て、広い世界を経験することは大層有益であり、できれば海外を経験すると良いといった示唆をいただいた。



国立日高青少年自然の家



■ セミナーでの主な学び

- ・ 外から来たよそ者による豊かな自然資源の発見が地域の人たちへの刺激になる。
- ・ 地域の活性化に向けたは成功のカギは人と人の繋がりである。小さな地域ほど密な人と人との繋がりがある。顔の見える繋がりを大切にすべき。

■ ウェブサイト URL

- ・ 報告書の URL: <https://www.esd-j.org/news/9723>
- ・ セミナーの動画の URL: <https://youtu.be/FFichW5wMRc>

3 東北地方セミナー大崎地域 SDGs 未来セミナー 「次世代の眼から見る大崎耕土 SDGs アクション」



講師: 郷古 雅春さん

講師: 早坂 正年さん

関係案内人: 高橋 直樹さん

司会: 小金澤 孝昭さん

- ・ 開催日時: 2021年12月4日(土) 13:00~15:00
- ・ 開催場所: 宮城県大崎市 岩出山『凜菜・上の家』
- ・ 講師: 郷古 雅春さん (宮城大学 事業構想学群 事業構想学研究科教授)
早坂 正年さん (ブルーフーム株式会社代表取締役)
- ・ 関係案内人: 高橋 直樹さん (大崎市世界農業遺産推進課長)
- ・ 司会: 小金澤 孝昭さん (アクションプラン推進委員会委員長)
- ・ 参加者数: 72名

関係案内人の高橋さんからの地域の紹介の後、講師の郷古さんから世界農業遺産を活用した地域づくりの現代的意義と価値について、早坂さんから経済的自立は、工夫の仕方で可能であり、地域の資源をものづくりや地域の文化とつなげることにより魅力的なものにできるとの話があった。会場に参加した20代、30代の多様な立場で地域づくりに関わっている若い方々からは、地域には蕪栗沼等、渡り鳥が飛来する湿地もあり、魅力にあふれているなど、自らの活動報告や関係案内人、講師の報告への積極的なコメントがあった。



凜菜・上の家

■ セミナーでの主な学び

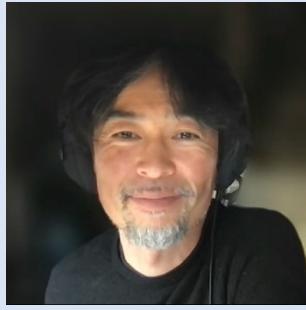
- ・ 大崎耕土の水管理等のシステムが世界に誇れる優れたものであることを認識し、それをグリーンインフラとして維持し、継承することが重要である。
- ・ 中長期的には、ボランティアだけでなく、経済的にも自立できるように取り組みが重要である。



■ ウェブサイト URL

- ・ 報告書の URL: <https://www.esd-j.org/news/9419>
- ・ セミナーの動画の URL: https://youtu.be/6vZsITEPg_k

4 関東地方セミナー「森という場の可能性」 ～子どもとひらくローカル SDGs～



講師: 小西 貴士さん



関係案内人: 諏訪 哲郎さん



司会: 鳥屋尾 健さん

- ・ 開催日時: 2022年1月16日(日) 13:30～15:30
- ・ 開催場所: 山梨県北杜市 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- ・ 講師: 小西 貴士さん (森の案内人・写真家)
- ・ 関係案内人: 諏訪 哲郎さん (NPO法人八ヶ岳 SDGsスクール 代表理事)
- ・ 司会: 鳥屋尾 健さん (公益財団法人キープ協会環境教育事業部長)
- ・ 参加者数: 59名 (山梨県からの指示により、オンラインのみで開催)

講師の小西さんから、森という場を活用した野外保育や地域づくりについて、未来の社会に向けての環境と教育についてのヒントをお話しいただいた。これから生まれてくる人に出会わせてあげたい景色は何かを考え、それを残すという視点が大切であり、多様な生命や物質があふれている森は、全てのものが生きていくために必要な要素やつながりを感じ、「全体」へ目を向けることができる場であると示唆いただいた。関係案内人の諏訪さんからは、SDGsをめぐる教育界の進展と、子どもたちの育ちに不可欠な自然についてお話をいただいた。



山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

■ セミナーでの主な学び

- ・ 自然体験の中での学びのように、全体のつながりを大切にし、全体を理解するチャレンジが大切である。
- ・ これまでの「分類する」というアプローチから新たに「つなぐ」という概念が生まれたが、さらにそれを超えて「全体を見る」との考え方が重要である。



■ ウェブサイト URL

- ・ 報告書の URL: <https://www.esd-j.org/news/10188>
- ・ セミナーの動画の URL: <https://youtu.be/q4ndNpVpnDs>

5 中部地方セミナー「若者と考える持続可能な遠山郷の未来」



講師:田開 寛太郎さん 関係案内人:山口 雄大さん 鈴木 志保さん

水戸 幸恵さん

司会: 小玉 敏也さん

- ・ 開催日時: 2022年1月30日(日) 14:00~16:00
- ・ 開催場所: 長野県飯田市 南信濃地域交流センター
- ・ 講師: 田開 寛太郎さん (松本大学 観光ホスピタリティ学科専任講師)
- ・ 関係案内人: 山口 雄大さん (上村地区)、鈴木 志保さん、水戸 幸恵さん (南信濃地区)
- ・ 司会: 小玉 敏也さん (麻布大学教授)
- ・ 参加者数: 108名

講師の田開さんから、今後の遠山郷の持続可能性を観光という視点から考える時、特定テーマに強い関心を持つ顧客に焦点を当てて、地域の誇りを守ることで観光地としての利用価値を高めることが有効との示唆をいただいた。続いて3人の関係案内人から、若者による伝統文化の継承、エネルギーの地産地消、合意形成を重視したまちづくり、関係人口を増やすゲストハウスといった視点から、それぞれの取組の報告があった。その後、20代の会場参加者から、若者が地域に残って暮らしていく意義や、地域外の人と交流し、学ぶことの重要性に関わる発言があった。



南信濃地域交流センター

■ セミナーでの主な学び

- ・ SDGsとは他者とともに未来を考えることであり、多様な人達とパートナーシップで取り組むことが重要である。
- ・ 遠山郷の様々な取組のうち、例えば、新しい観光のあり方、若者による伝統文化の継承、合意形成を重視したまちづくり、関係人口を増やすゲストハウスの役割といった視点は他地域にも適用可能と考えられる。



■ ウェブサイト URL

- ・ 報告書の URL: <https://www.esd-j.org/news/10284>
- ・ セミナーの動画の URL: <https://youtu.be/O0lf30oKPAk>

6 近畿地方セミナー「パートナーシップで育む京都のごみ削減活動」



講師: 浅利 美鈴さん



関係案内人: 太田 航平さん



安藤 悠太さん



司会: 下村 委津子さん

- ・ 開催日時: 2022年1月23日(日) 13:00~15:00
- ・ 開催場所: 京都市右京区京北 京都里山 SDGs ラボ
- ・ 講師: 浅利 美鈴さん (京都大学 地球環境学堂 准教授)
- ・ 関係案内人: 太田 航平さん (NPO 法人地域環境デザイン研究所 ecotone 代表理事、一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦 理事長)
安藤 悠太さん (京都大学 博士後期課程、エコへるど京大メンバー)
- ・ 司会: 下村 委津子さん (認定 NPO 法人環境市民 副代表理事)
- ・ 参加者数: 86名

講師の浅利さんから、元栓を閉めた方が早道であり、ごみを出さないことが大切、意識の高い市民とあまり関心が高くなない層とのギャップが問題解決が進まない要因であり、無関心層へのアプローチが重要等の指摘がなされた。また、環境や地域づくり活動を引っ張るリーダー育成を図っているとの説明があった。関係案内人の太田さんは、全国各地から参加する祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティア約2,200人/回は、地元へ戻った後、その地域のごみ減量活動のリーダーとなっているとの紹介があり、安藤さんは、1日1人ずつ環境に関するメッセージをフェイスブックで発信する「1日1エコ/ぬか漬けチャレンジ」を行っている等、研究と実践の両立があってこそ成功との体験談が語られた。



京都里山 SDGs ラボ



■ セミナーでの主な学び

- ・ 異なる層を引き込む手法として、環境と他の分野・テーマを結びつけることが有効である。
- ・ 環境活動だけでなく地域の課題と一緒に取り組んでくれる人を見つけるには、個人の関心をもとに将来も考えて巻き込むこと、その活動によって自分が得られるものや参加する意義、共通の体験から得られるものを考えるよう仕向けることなどが大切である。

■ ウェブサイト URL

- ・ 報告書の URL: <https://www.esd-j.org/news/10342>
- ・ セミナーの動画の URL: <https://youtu.be/W7kAOFqhTwc>

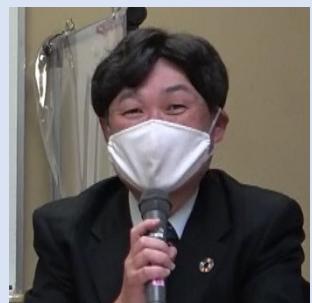
7 中国地方セミナー「SDGs 海と川を守ろう実践セミナー」



講師: 中平 徹也さん



関係案内人: 岩淵 泰さん



司会: 池田 満之さん

- ・ 開催日時: 2021年12月12日(日) 14:00~16:00
- ・ 開催場所: 岡山県岡山市 京山公民館
- ・ 講師: 中平 徹也さん (NPO 法人岡山環境カウンセラー協会事務局長)
- ・ 関係案内人: 岩淵 泰さん (岡山大学地域総合研究センター副センター長・准教授)
- ・ 司会: 池田 満之さん (岡山 ESD 推進協議会運営委員長他)
- ・ 参加者数: 109名

講師の中平さんからは、河口や海底に蓄積しているごみの現状の報告、私たちの暮らしの変化とごみの関係等について説明いただいた。関係案内人の岩淵さんからは、私たちの暮らしを変える必要性があること、暮らしを変えることは不便になることではなく、健康的で楽しくなるようなビジョンを持つことが大切との示唆をいただいた。会場に参加した市民団体、大学生、高校生などからは、ごみが見えなくなったからといってなくなったわけではないこと、綺麗な海と豊かな海は違うことを理解したので、昔のような豊かな海を目指したいこと等の気付きが語られた。それに対し、講師、関係案内人から、若者は周りに忖度することなく、どんどん意見を言えば良い、若者の力で良い選択をしてほしいとの激励が行われた。



京山公民館



■ セミナーでの主な学び

- ・ ごみを減らすためには、経済も環境も社会も立派に成長できるような社会を目指すべき。
- ・ 初めの一歩が大切。自ら積極的に声を掛けたり、自分のやっていることを周りにアピールしたりすれば地域や活動と繋がることができる。

■ ウェブサイト URL

- ・ 報告書の URL: <https://www.esd-j.org/news/9772>
- ・ セミナーの動画の URL: https://youtu.be/SzLzmkm_k2Q

8 四国地方セミナー「食から持続可能な地域づくりを考える」 ～昆虫食からサーキュラーフードへの挑戦～



講師：渡邊 崇人さん



関係案内人：市岡 沙織さん



司会：中矢 謙太郎さん

- ・ 開催日時：2022年2月6日（日）13:00～15:00
- ・ 開催場所：徳島県板野郡 株式会社ハレルヤ
- ・ 講師：渡邊 崇人さん（グリラス代表取締役 CEO、徳島大学バイオイノベーション研究所助教）
- ・ 関係案内人：市岡 沙織さん（株式会社ハレルヤ代表取締役）
- ・ 司会：中矢 謙太郎さん（株式会社ハレルヤ 総務部課長補佐）
- ・ 参加者数：88名

関係案内人の市岡さんから、食品ロス削減に向けて、ハレルヤによる規格外品をお菓子に変えて提供する取組が紹介され、美味しいお菓子にすることが成功のカギと指摘された。講師の渡邊さんは、タンパク源として、また、食品ロス削減対策としてのコオロギ食を紹介いただき、ロスされた食品をエサとしたサーキュラーフードとしてのコオロギの有用性や、昆虫は飼育に使う水の量や排出される温室効果ガスが牛や豚に比べて圧倒的に少なく環境負荷が少ないこと等が指摘された。地方だからこそできることがあり、地方は住みやすくやりがいのある場であるとの認識が広く共有されることが大切で、このような徳島の取り組みが他の地域にも広がることへの期待が表明された。



株式会社ハレルヤ



■ セミナーでの主な学び

- ・ 物流を抑えながら無駄のない循環を目指すという意味でも、地域で小さな循環を増やすことが大切である。
- ・ 地域ごとに生じるフードロスは異なるので、その地域に合ったサーキュラーフードのブランド化が大切である。

■ ウェブサイト URL

- ・ 報告書の URL : <https://www.esd-j.org/others/10424>
- ・ セミナーの動画の URL : <https://youtu.be/ImwwEffNVqU>

9 九州地方セミナー「海洋プラスチックから考える対馬型 SDGs」



講師: 堅達 京子さん

講師: 松井 秀明さん

関係案内人: 川口 幹子さん

司会: 阿部 治さん

- ・ 開催日時: 2022年1月29日(土) 14:00~16:00
- ・ 開催場所: 長崎県対馬市厳原町 対馬市交流センター
- ・ 講師: 堅達 京子さん (NHK エンタープライズ・エグゼクティブ・プロデューサー)
松井 秀明さん (一般社団法人対馬 CAPPA 事務局)
- ・ 関係案内人: 川口 幹子さん (一般社団法人対馬里山繫営塾代表理事等)
- ・ 司会: 阿部 治さん (立教大学名誉教授、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 代表理事)
- ・ 参加者数: 120名

関係案内人の川口さんにより対馬が抱えている課題や対馬に惹かれて移り住む移住者が活躍している等の紹介が行われた後、講師の堅達さんから気候変動や海洋プラスチックなどの世界的な危機が訪れているとの説明があり、脱プラスチック社会に向けて、私たちに出来ることは何なのか等の話がされた。講師の松井さんからは、対馬に移住し、対馬のごみのモニタリング調査の実施、海岸清掃のボランティアの受け入れ窓口、環境スタディツアーナどを行っているとの紹介があった。近年は倒木の流出も多く、森が荒れることによる海の荒廃についても指摘された。



対馬市交流センター

■ セミナーでの主な学び

- ・ 海洋ごみをはじめとして、対馬が抱える様々な課題は日本の課題の縮図ともいえるので、それらの課題を教育資源と捉え、対馬に学びに来る人を増やすことで対馬を活性化することができる。
- ・ 地球危機に対処するため、今まさに行動が求められている。もはや小手先の取り組みではこの問題を解決することは不可能であり、システム全体、OS そのものを変えなければいけない。



■ ウェブサイト URL

- ・ 報告書の URL: <https://www.esd-j.org/news/10495>
- ・ セミナーの動画の URL: <https://youtu.be/uxUwNlu0CLE>

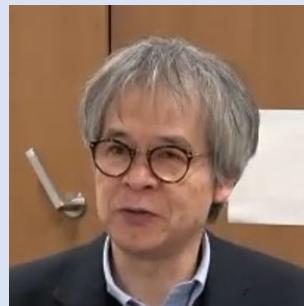
10 全体セミナー「みんなで地域の未来を創る！SDGs アクション」 ～人+文化が地域の資源を魅力化！～



講師: 堅達 京子さん



講師: 早坂 正年さん



講師: 阿部 治 さん



司会: 鈴木 克徳さん

- 開催日時: 2022年2月23日(水) 14:00～16:00
- 開催場所: 日比谷図書文化館 (4階セミナールームB)
- 講 師: 堅達 京子さん (NHK エンタープライズ・エグゼクティブ・プロデューサー)
早坂 正年さん (ブルーフーム株式会社 代表取締役)
阿部 治さん (立教大学名誉教授、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 代表理事)
- 司 会: 鈴木 克徳 (特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 理事)
- 参加者数: 208名

環境省による挨拶、ESD-J 理事の鈴木さんからの地方セミナーの概要についての説明後、講師の堅達さんから九州地方セミナーについて、早坂さんから東北地方セミナーについて、阿部さんから基調講演「SDGs の達成に向けた地域の資源の輝かせ方－持続可能な地域づくりとしての ESD の役割－」の講演が行われた。地域の良さを可視化することの重要性、経済的に成立するような活動の必要性、そのための人材育成の重要性等が強調された。質疑応答では、地方セミナーに参加した3人の若者による地方セミナーでの学びや全体セミナーの講演に対する質問、コメント、オンライン参加者からの質問等に対する回答が行われた。



日比谷図書文化館



■ セミナーでの主な学び

- この10年が人類の正念場であり、気候変動と経済・社会的課題の同時解決を目指すことが必要である。
- 持続可能な地域づくりは、中長期的な観点からはボランティアだけではやっていけず、経済的に成り立つ活動にすることが必要である。
- 地域創生のカギとして、地域の諸課題の統合化・総合化、地域の多様な資源の見える化、地域住民の誇りの回復、学校が果たす役割、多様な主体間の協働、コーディネーターの役割、自分たちが社会を変える力を持っているとの自覚と意欲を持つ人材の育成等が挙げられる。

■ ウェブサイト URL

- 報告書の URL: <https://www.esd-j.org/news/10537>
- セミナーの動画の URL: <https://youtu.be/uRi2M3V1-iE>

令和 3 年度ローカル SDGs 人材育成地方セミナー開催レポート
(令和 3 年度ローカル SDGs 人材育成地方セミナー業務)

編集・デザイン：特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

発行日：令和 4 年 3 月

発行者：環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室

〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2